

[21_3] 図書館情報 : 九州大学附属図書館報 :
21(3)

<https://doi.org/10.15017/27225>

出版情報 : 図書館情報. 21 (3), pp.17-26, 1985-10-30. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :



九州大学附属図書館報

図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 21, No. 3 (1985, 7~9)

目次

・附属図書館運営の近況について	17
・昭和59年度文献複写・相互利用・情報検索・ レファレンス統計等	19

附属図書館運営の近況について

附属図書館長 高野桂一

今夏の格別な酷暑もようやく過ぎて秋風を感じさせる昨今、各部局の皆さんには、いよいよ研究・教育にご精励のことと存じます。酷暑とは逆に、昭和61年度国家予算は相も変わらず「行革」緊縮予算を続けるようで、寒さを覚えるとともに一種の矛盾をも感ぜざるを得ないこの頃です。このような状況のなかで、本学附属図書館が今のところこれまでの教育・研究水準を維持し、さらに一步でも前進できるようにと何ほどのサービスを続けることができますのは、これひとえに全学の各部局の皆様のご理解とご協力はもちろんのこと、日常的に図書館業務に携わる職員の方々の並々ならぬ工夫と努力の賜と深く感謝申しあげるしだいです。

今や大学図書館は今日の高度情報化社会のなかで大きく変貌しつつあり、従来とは異なる大学図書館の新しいイメージを湧かし、構図を創出していかなければなりません。時あたかも臨教審の教育改革案をめぐるホットな論議がなされつつあり、今後、高等教育改革についても何らかの志向が明確化されることになりましょう。それにもかかわって、今やこれからの大学図書館の地位・機能・条件整備のあり方をもう一度根本的に見直す時機が到来したと考えることもできましょう。その意味で、ここで附属図書館の最近の全国的動向の一端と、わが九大図書館の近況を以下、かいつまんでお知らせすることも必要なことかと思ひます。

1) 全国的学術情報システム化の本格的促進

学術情報システムの中核ともいべき国立共同利用機関としての東大文献情報センター(NC)が昨昭和59年に発足し、すでに東工大、名大、阪大等との目録システムの試行的接続がなされ、全国的ネットワーク化が本格的実現の段階に入っています。わが九大ではすでに全国にさきがけ、昭和55年に附属図書館独自の中型計算機をもって、北部九州地区国立6大学図書館の地域センター館(RC)としてオンライン・ネットワーク化を促進してきましたが、間もなく東大文献情報センターとの全国レベルの接続に入ります。これが遠からず形を整えた暁には、研究者・学習者の文献・資料は単に学内や九州地区の学術情報資源の効率的な検索や相互利用に止まらず、全国的な大学相互間のより広汎にして迅速な検索や相互利用が格段の進展をみせ、研究・教育の効果をいっそうあげ得るようになっていくと思ひます。昭和60年4月の九州地区国立大学附属図書館協議会にひき続いて同年5月に開催された全国国立大学図書館協議会でも、この問題について具体的

な実現方法にまで掘り下げた活発な論議がなされました。ここでは前記NCの人員・組織・機構のいっそうの整備充実、コンピューター導入によるネットワーク参加館(ML)の増加、また、それに対応する各大学図書館の学内体制の整備(NCとの接続上の処理方式及び組織改革を含む業務体制の整備、ハウスキーピング・システムの構築等)の志向や当局への要望が論議され、集約されました。

このような状況のなかで、今後、本学附属図書館はなお従来のRC館としてのセンター的役割を前向きに果しつつ、さらに全国的ネットワークの中での地位と役割を確立していく課題をかかえ、責任を負っていかねばなりません。単なる学術情報システムの整備という言葉以上にシステム化のための対外的な連絡調整及び代表機能の拡充を必然的に余儀なくされ、その意味ではまた、中央図書館の集中的・基本的な総合機能や全学代表機能が、ますます重要となっていくでしょう。

2) 学内の附属図書館運営上のご支援・ご協力に対する謝意

すでにわが館では各部局のご協力のもとに閲覧・図書整理・目録・雑誌等の諸システムの開発を終り、筑紫地区の端末設置を最後に学内10の端局に62の端末機を整備しました。そのほか、芸工大、福教大、佐賀医大にも接続されており、業務がオンライン処理によって行われています。そして、ただ今、全国センターとしてのNCとの新たな接続準備を鋭意進めているところです。また、文系の講座組織の再編成に伴う特別図書予算配分方式の初期的過渡的改善をも、諸学部の方のご理解・ご協力によって行うことができました。

しかし、ここでそれらにもまして特筆すべき学内のご協力としては、かねてより本館が概算要求として全学にお願いして参りました九大附属図書館整備充実構想の一環としての ①中央図書館書庫増築、②文系図書室書庫増築、③保存図書館改修等の3案のうち、中央図書館書庫増築案が各般の方のご協力のもとに本格的具体的計画案として全学的、とくに関連部局との合意によって承認され、いづれ遠からず実現の運びとなりました。田中学長をはじめ、本部事務局とくに施設部のご尽力ご苦労はもちろんのこと、書庫の敷地計画の設定に関しては農学部教授会及び前宮島農学部長・長事務長の格別のご配慮・ご協力をいただきました。心より厚く御礼を申しあげさせていただきます。

本学教官著作寄贈図書

＜中央図書館＞

西田越郎先生退官記念論集刊行会

西田越郎先生退官記念

ドイツ文学・語学論集

同刊行会 昭60

君塚 英夫(理)

化学ポテンシャル—化学one point 9—

共立出版 昭60

岡村 繁(文)

藤樹書院蔵書分類目録

滋賀県安曇川町 昭60

武野 秀樹(経)

ミクロ経済学入門

中央経済社 昭60

＜文学部＞

春日 和男(文・名誉教授)

春日政治著作集 別巻

勉誠社 昭60

＜医学分館＞

上田 陽(薬・名誉教授)

薬品量子化学

広川書店 昭60

＜薬学部＞

上田 陽(薬・名誉教授)

薬品量子化学

広川書店 昭60

堀岡 正義(医)

新薬論 第4版

南山堂 昭59

兼松 顯(薬)

エッセンシャル医薬品化学

医歯薬出版 昭60

《教養部分館》

白水 隆 (養・名誉教授)

日本産蝶類文献目録

北隆館 昭60

中山 正敏 (養)

パイエルス理論物理秘伝集

共立出版 昭60

福留 久大 (養)

Berlin, I. 著 福留 久大訳

「人間マルクス」 第4版

サイエンス社 昭60

田島 松二 (養)

The syntactic development of the gerund in
Middle English

南雲堂 昭60

徳永 幹雄 (健)

徳永幹雄・金崎良三・多々納秀雄等著

現代スポーツの社会心理

遊戯社 昭60

((図 書 館 統 計))

昭和59年度 文献複写受付統計・相互利用統計

中央図書館

種別 区分	電子複写		引 伸		マイクロフィッシュ		合 計		文 献 複 写	受付 (学外から受付した件数)	7,367
	件数	枚数	件数	枚数	件数	シート数	件数	枚数		依頼 (学外へ依頼した件数)	2,181
国立大学	4,930	63,974	10	83	4	20	4,944	64,077		計	9,548
公私立大学	1,344	19,500					1,344	19,500	相互貸借 (冊数)	受 付 (貸 出)	236
上 記 以 外	1,070	9,454	8	116	1	8	1,079	9,578		依 頼 (借 用)	80
合 計	7,344	92,928	18	199	5	28	7,367	93,155		計	316
									他機関利用 (件数)	国立大学図書館間共通閲覧証	49
										学外図書館利用依頼状	93
										計	142

昭和59年度 文献複写依頼統計・学内複写等統計・全学共同利用複写機統計

中央図書館

部 局	項 目			学外へ文献複写依頼件数				学内文献複写等受付件数				合 計	全学共同利用複写機 件 数
	校 費	私 費	計	複写	引伸	マイクロフィッシュ	計	複写	引伸	マイクロフィッシュ	計		
文 学 部	58	477	535	1	2		3				3	538	2,285
教 育 学 部	6	93	99	1	2		3				3	102	23
法 学 部	57	104	161									161	25
経 済 学 部	12	21	33									33	249
理 学 部	50	53	103		5		5				5	108	259,052
医 学 部					25		25				25	25	
医学部附属病院					5		5				5	5	
歯 学 部					13		13				13	13	346
薬 学 部					2		2				2	2	1,680
工 学 部	405	38	443	13	3	1	17				17	460	53,201
農 学 部	321	218	539	5	7		12				12	551	242,427
農学部附属農場													1,316
農学部附属演習林					2		2				2	2	1,942
教 養 部	51	17	68	270			270				270	338	5,227
生体防御医学研究所	3		3	3			3				3	6	
大学院総合理工学研究所	67	7	74	22			22				22	96	7,183
応用力学研究所	26		26	64			64				64	90	751
生産科学研究所	37	3	40	35	1		36				36	76	4,757
健康科学センター	48	3	51	24			24				24	75	
医療技術短期大学部				4			4				4	4	
情報処理教育センター						3	3				3	3	
大型計算機センター	5		5									5	
図 書 館		1	1									1	
合 計	1,146	1,035	2,181	494	15	4	513				513	2,694	580,464

昭和59年度 情報検索分野別統計 (中央図書館)

(1) DIALOG

i) 検索申込総件数 92件 (SDI検索・業務用を含む)

ii) ファイル別内訳

分野	人 文 ・ 社 会 学			科 学				技 術				
	ERIC	Soc. Abs	POLITICAL SCI	LISA	MLA Bib	BIOSIS	COMPENDEX	FSTA	NTIS	Conf. INDEX	METADEX	ENVIROLINE
ファイル名												
ファイル内容	教 育	社 会 学	政 治	図 書 館 情 報 学	文 学 ・ 語 学	生 命 科 学	工 学	食 品 科 学	米 国 政 府 研 究 レ ポ ー ト	科 学 技 術 会 議 資 料	金 属	環 境 ・ 公 害
ファイル番号	1	37	93	61	71	5・55・255	8	51	6	77	32	40
項目												
ファイル接続件数	15	1	1	1	1	13	4	2	6	1	1	1
ファイル時間	1.037	0.044	0.147	0.068	0.032	0.851	0.593	0.212	0.727	0.056	0.115	0.019
ファイル別時間比率	6.2	0.2	0.9	0.4	0.2	5.1	3.5	1.3	4.3	0.3	0.7	0.1
SDI検索件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
分野別時間比率	7.9 %			78.8 %								

術	医学・ライフサイエンス				書誌			その他		計
	ZOOLOGICAL RECORD	EMBASE	MED	IRL Life SCI	Social SCI	SCISEARCH	MAGAZINE INDEX	DIALINDEX	Books in Print	
化学	動物	医学・薬学	医学	ライフサイエンス	社会科学引用索引	自然科学引用索引	雑誌索引	検索補助	出版書誌	
308・309・310・311・320	185	72	154	76	7	34・94	47	411	470	
130	1	1	1	1	2	7	1	1	2	194
10,652	0.042	0.046	0.054	0.052	0.201	1.610	0.059	0.123	0.081	16,821
63.3	0.2	0.3	0.3	0.3	1.2	9.6	0.4	0.7	0.5	100
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	0.9 %				12.4 %			100 %		

(2) JOIS

i) 検索申込総件数 106件 (SDI検索, 業務用を含む)

ii) ファイル別内訳

項 目	ファイル名	JICST	CA Search	MEDLINE	INIS	研修ファイル	計
	ファイル内容	科学技術	化学	医学	原子力文献	研修用	
	ファイル番号	010・011	210・211	110・111・112	420・421	009	
ファイル接続件数		135 ^件	10	0	4	7	156
ファイル接続時間		936 ^分	81	0	22	25	1,064
ファイル別時間比率		88 [%]	7.6	0	2.1	2.3	100%
SDI検索件数		0 ^件	0	12	0	0	12

昭和59年度 レファレンス統計

項 目 受 付	利 用 者 別					内 容 別				
	学 内			学 外	合 計	所 在 調 査	事 項 調 査	利 用 指 導	そ の 他	合 計
	学 生	教職員	小 計							
デ ス ク	2,079	1,364	3,443	702	4,145	3,114	311	696	24	4,145
事 務 室	119	625	744	1,295	2,039	1,751	281	6	1	2,039
合 計	2,198	1,989	4,187	1,997	6,184	4,865	592	702	25	6,184

レファレンス・コーナー (その42)

中央図書館の参考調査掛(内線2454・2464)では、利用者の方々から寄せられるいろいろな質問について調査の手伝いをしています。最近の質問の中からいくつかを取り上げ、調査の過程と使用した資料を紹介します。

質問1 Brain Structure and behavior in insects. P.E. Howse. の掲載誌を知りたい。

回答例 質問者持参のコピーの上部にCopyright 1975. All right reservedとあるので、1975年以降と考えられる。SCI (Science Citation Index) 1975—1979. Source Indexで調べると、上記の著者の論文名があり、Ann R Entom 20. 359—379. 75と記述されている。学術雑誌総合目録 自然科学欧文篇でフルタイトルはAnnual Review of Entomologyとわかる。

質問2 東洋文庫の刊行誌はどんなものがあるか。

回答例 全国各種団体名鑑1984. から調べると、その団体の設立年月日、目的、事業、及び刊行誌等が掲載されている。刊行誌は、「東洋学報」(A5・旬刊)。「東洋文庫欧文紀要」。(B5・年刊)。「近代中国研究彙報」。(A5・旬刊)。「東洋文庫各種研究委員会報告」(B5・年刊)

質問3 J. of Japanese Starch Science. Vol. 23 1976. を入手したい。

回答例 欧文誌には該当誌名がない。タイトルの中に Japanese とあること等から和文誌と考え、澱粉科学と推量してみる。国会図書館の和雑誌目録で澱粉科学を検索すると「澱粉科学」は澱粉工業学会誌が改題されたものと判明。全国学協会総覧1976. から澱粉工業学会が1971年に改称した日本澱粉学会の機関誌で、欧文タイトルがJournal of the Japanese Society of Starch Scienceとわかる。学術雑誌総合目録 自然科学和文編より、澱粉工業学会誌を検索し、所蔵機関を紹介。

質問4 小牧近江著『異国の戦争』の出版社名(昭和初期刊行)を知りたい。

回答例 九大は所蔵していない。帝国図書館和漢図書書名目録 五編. 1927-35. で調べると、昭和5年刊行、しかし出版社名が記していない。次に、「現代日本執筆者大事典」で著者の年譜・目録が「社会労働研究」11巻4号(1965)に掲載されていることがわかる。法学部所蔵。法学部図書掛に調査依頼。出版社は日本評論社。

質問5 「ビルマの豎琴」の著者竹山道夫の没年月日を知りたい。

回答例 文芸年鑑の項目に、その前年の物故者掲載欄がある。1983, 1984年版で調査するが記述なし、次に朝日年鑑1985年版人名録の物故者名簿欄に昭和59年6月15日没。と記されている。

質問6 ビクトール・フランクル (Frankl, Victor Emill) の「夜と霧」の英訳タイトルを知りたい。

回答例 日本訳の「フランクル著作集」。みすず書房。1962。本図書館に所蔵。第1巻に「夜と霧」が掲載されている。その副タイトルに、強制収容所における一心理学者の体験と記され、原タイトルが独語で、Ein Psycholog Erlebt das Konzentrationslager と記されている。次に The National Union Catalog. 1958-1962. Author List で検索すると、From death-camp to existentialism: a psychiatrist's path to new therapy と掲載。この英文タイトル下段に独語の原タイトルがある。

質問7 イギリスの19世紀頃の女流作家。Gaskell, Elizabethの翻訳書の九大所蔵を知りたい。

回答例 明治・大正・昭和翻訳文学目録、合集収載翻訳文学索引、及び18-19世紀英米文学ハンドブック、年表英米文学史で、翻訳書の書誌を調査。総合目録で、野上豊一訳の「クランファド」、和知誠之助訳の「シャーロットブロンテの生涯」、海老池俊治訳の「地主の物語」所蔵確認。

◆ 研 修

大学図書館職員長期研修(第17回)に参加して

二 宮 純 恭

〈とき：昭和60年7月29日～8月17日 ところ：図書館情報大学〉

情報化社会と呼ばれるようになって久しい。情報伝達手段の発展やマスコミの普及は大量の情報社会のすみずみにまで流通させるようになった。誰もがいろいろな情報を知ることができるようになり、次の新たな情報への要求を生み出す要因となってきている。またこれらの情報要求は多様化・高度化へと質的に変化しマスメディア等の開発を更に促進させている。ニューメディア時代の到来を強く感じる昨今である。

私どもの職場である大学図書館界に於いても“学術情報システム”の動きが慌ただしくなってきた。このシステムは学術研究の底辺の拡大に伴い研究情報の生産量が急激に増大し、研究者自身による必要情報の入手が極めて困難となってきたことから研究活動に必要な情報を迅速かつ的確に提供できるようにすることを目的としたものである。構想されて以来、いろいろと紆余曲折はあったようであるが、文部省を始めとした関係機関の努力によって既にこのシステムは一部分ではあるが稼働を始め新しい局面を迎えようとしている。

このような情勢の中で「学術情報システムと大学図書館の具体的対応」をメインテーマとした標記研修が37名の参加のもとに開催された。数多くの講義、研修テーマに関連した諸機関の見学、検索実務の演習、グループによる研究討議などの研修活動を経験し見聞を広めることができ有意義であった。

ところで、利用者が必要とする資料や情報を提供するための機関である図書館は必然的に著作権法との係りあいをもっている。最近の著しい電子技術や関連機器類の普及により、現在、図書

館機能の一つとして定着している複写サービスを始めニューメディア・データベースやコンピュータソフトウェアの保護、さらに録音・録画等において新しい形の著作権に関する事が問題となってきた。受講テーマの一つであった「著作権における今日の問題」は携わっている職務柄からであろうか常日頃から関心を寄せていたこともあったので、特に印象深いものがあった。今回はこの中のソフトウェアの保護について特記したい。

コンピュータの急速な普及に伴いソフトウェアの開発が盛んになる一方その盗用が問題となるにいたりコンピュータソフトウェアの法的保護が強く要請されるようになってきた。文化庁は現行の著作権法のもとで保護すべきであるとして昭和56年頃から改訂のための検討を進めてきた。一方通産省はコンピュータソフトウェアは経済財であって著作権法による保護にはなじまないとの考えのもとにプログラムについての新規立法を主張し立法化へ向けての検討を進めてきた。日進月歩で進展するソフトウェアに、はたして50年間の保護が必要なのかという疑問や実際50年間保護された場合ソフトウェアは産業的色彩が濃いものであるから産業振興を阻害する恐れがあるとの危惧があったほか公共の利益(＝産業振興)のために必要との判断があれば強制的な開放が行えるような性格(裁定制度と呼んでいた)を持たせたいとの考えがあったからであろう。文化庁案、通産省案どちらにも関係者の思惑が秘められており昭和57年から59年にかけて激しい確執が繰返されたことは周知の事実である。当時はどちらかと言えば通産省案の方がリズナブルであると受けとめられていた。しかし結果は、著作権法を適用しての保護を図る方向が国際的な中で大勢となってきたとして、昭和60年に入り現行著作権法の一部改正によるソフトウェアの保護が明確化され短期間のうちに法手続き等がなされ昭和61年1月から施行されることとなった。

このことで、数年間にわたり立法化へ向けて精力的に検討が重ねられてきた通産省案の関係者からこれまでの経緯や文化庁案に押し切られた理由などの詳細についての公表が行われなかったことに驚きを禁じ得なかった。コンピュータメーカーやソフトウェアハウス等関連業界が今後被るであろう痛手は相当のものがあろう我々を含めたコンピュータユーザにも少なからぬ影響が及ぶであろうことは容易に想像できるからである。この一連の国内における法制化への動きと最近の新聞紙上を賑わした日米貿易摩擦の問題、今年1月の日米首脳会談、IBMスパイ事件などの国際的な動きとがよく符合することから非常に高いレベルでの政治的な決着が図られたのではないかと察するのは考え過ぎであろうか。情報化社会、ニューメディア時代の到来といわれ、OA化が日に日に進み情報が多彩に流通するようになった現代の社会を情報の生産・流通・商取り引き、情報の権利・保護といった観点から注意深く観察してみるとその内には苛酷な企業間競争、国家間の情報戦略が繰り広げられている様子が垣間見られて興味がつきないものである。

最後となったが、今回の長期研修への参加に当りこの機会を与えてくださった方々並びにいろいろの方面からご支援をくださった関係者の皆様へ深く感謝の意を表わしてこの稿の結びとする。

(中央図書館情報管理掛長)

昭和60年度 漢籍担当職員講習会 (電算処理)

吉 村 俊 亮

〈とき：昭和60年6月17日～21日 ところ：京都大学〉

この講習会は、文部省及び京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センターの共催により、学術情報システム環境整備の一環として、漢籍(中国人によって書かれた漢文の書籍)並びに中国学の文献目録を電算処理することに関する知識と技術の修得を目的として、毎年開催されている。受講定員及び受講者は、30名で、国立・県立・私立の各大学図書館に勤務している人であった。

本年度の講義及び実務は次の通りであった。

第1日(6月17日)

- ・漢字のデータベース(講演), (星野聡, 京大教授, 大型計算機センター)
- ・東洋学文献類目の編纂とフォーマット (都築澄子, 京都大学東洋学文献センター)
- ・入出力資料作成 (実習)

第2日 (6月18日)

- ・東洋学文献類目の著者索引 (村尾義和, 京都大学技官, 大型計算機センター)
- ・東洋学文献類目のデータベース化と冊子体作成 (河野典, 京都大学技官, 大型計算機センター)
- ・特殊な漢字(外字)の計算機 (桶谷猪久夫, 京都大学技官, 大型計算機センター)
- ・入出力実習

第3日 (6月19日)

- ・計算機入門 (島崎眞昭, 京都大学助教授, 大型計算機センター)
- ・計算機の入出力 (金澤正憲, 京都大学助手, 大型計算機センター)
- ・入出力実習

第4日 (6月20日)

- ・情報検索 (渡辺豊英, 京都大学助手, 大型計算機センター)
- ・コンピューターネットワーク (飯田記子, 京都大学講師, 大型計算機センター)

- ・大型計算機センター見学

第5日 (6月21日)

- ・東洋学文献類目と漢籍目録の電算化 (勝村哲也, 京都大学助教授, 東洋学文献センター)
- ・東洋学文献センター書庫見学及び参加者の意見発表

この報告では, 今回の講習のうち次の二項目をとりあげ, その内容を紹介する。

「漢字のデータベース」について, 星野講師から次のような講演があった。

図書館情報学は, 図書館学と情報学をドッキングして出来た学問であり, 人文科学の分野では, 情報学的立場からの情報処理を問題にしている。現在までの実績は, 大型計算機にデータベースを蓄積し, 検索システムが利用出来るまでになっている。

情報管理の方法としては, 情報検索システム FAIRS-1 の下でデータベースとして, 漢字データの CHINA 1(中国明代の科挙合格者の人名, 地名情報) と CHINA 2(中国唐代の詩人李商隱の樊南文集の本文と注釈) が開発された。

図1は, そのデータベースの作成と利用の関係を示す。データをデータベースの形で計算機に格納することは, 多くの研究者がデータを共用するために有効な方法となった。さらにポータブル漢字端末を用いると電話でどこからでも大型計算機センターと接続することにより利用者は必要とする情報を迅速に入手することができる。

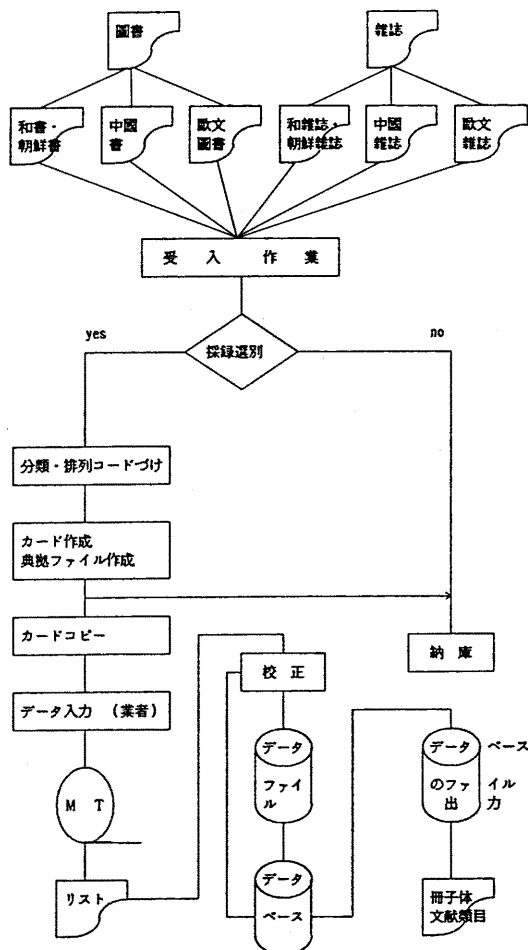


図1 データベースの作成と利用

電算機利用による「東洋学文献類目」について

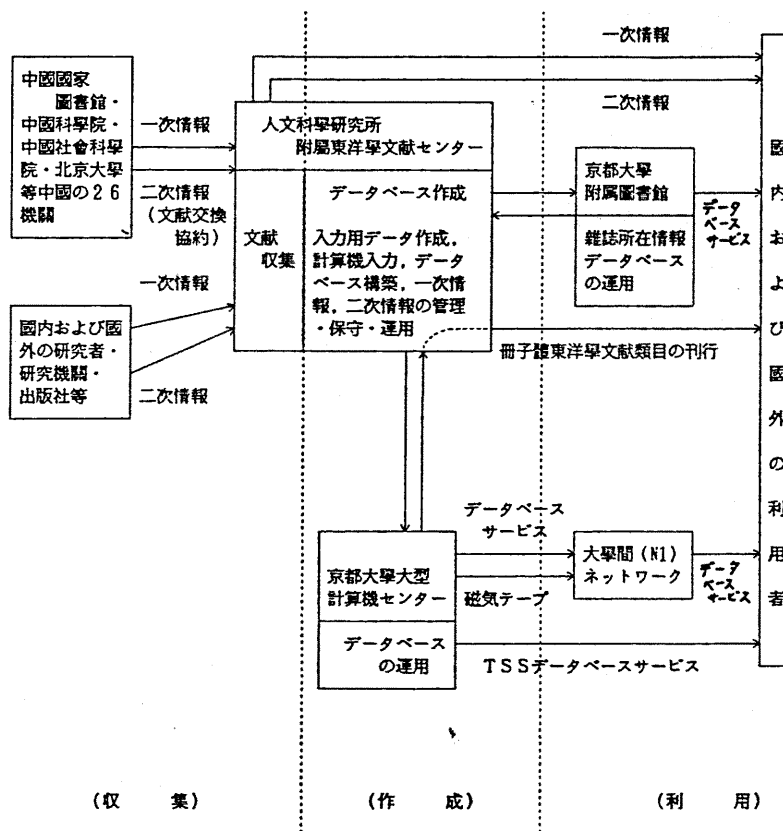
京大東洋学文献センターの逐次刊行物を、発行年順に記すると「東方学報」和・中(年刊), 1930年, 「東洋学文献類目」和・中・欧(年刊), 1934年, 「人文学報」和文(2/年刊), 1950年, 「調査報告」和文(年刊), 1952年, 「zinbun」欧文, 1957年となる。

この中で、電算化されている「東洋学文献類目」は、(1)和・中・朝鮮文篇の採録誌一覧、論文の部、単行本の部 (2)欧文篇の採録誌一覧、論文の部、単行本の部 (3)著者索引で構成されている。

採録範囲(地域)は、中国を中心とした東洋学の範囲で、東は朝鮮まで、南は東南アジア、インド、アフガニスタン、インドネシアまで、西は中央アジア、カスピ海、ウラル山脈まで、北はモンゴル、シベリアまでを範囲としている。

この東洋学文献類目等の電算処理の組織は図2のとおりである。

図2 東洋学文献類目・漢籍目録・漢籍データベースの組織図



実務としては、カードに手書でフォーマットをサブ・フィールド記号で作成するとともに、大型計算機センターの端末ターミナルを使用して、中国学術雑誌「西南師範學院學報(哲学社会科学)」についての入出力を行った。
(教養部分館閲覧掛)

語 学 研 修 — 朝 鮮 語 初 級 —

図書系職員を対象として毎年行われる語学研修は、今年は朝鮮語にきまり、文学部助手の白川豊氏を講師に迎えて、7月23日から9月27日まで、毎週2回中央図書館小会議室で実施されました。

◆ 会 議

昭和60年度 九州地区国立大学図書館協議会実務者連絡会議

〈とき：昭和60年9月11日(休)～12日(休) ところ：宮崎医科大学〉

15大学から22名が参加し、標記の会議が開催された。

議題は下記のとおりである。

1. 「国立大学図書館一般公開」の条件と対策について。
2. 「ハガキ式相互貸借申込書」の全国統一への要望。
3. 他館利用について。

イ. 教官「国立大学図書館間共通閲覧証」に代わる「国公立共通閲覧証」での利用。

ロ. 学生「学生証」による利用。

承合事項は下記のとおりである。

1. 学内国費(校費振替)による文献複写料金について。
2. 貴重図書等の復刻、翻刻および掲載について(特に営利を目的とした出版物について)。

各議題について活発な討議が行われた。特に議題1.「国立大学図書館一般公開」の条件と対策については、昨今の公開を求める社会的要求が高まりつつある中で、各館はどのように対処しているか、又、問題点は無いか等を中心に討議を行った。しかし、このことについては、各館の事情がありそれぞれに問題点があるので、地区としては、先の第32回国立大学図書館協議会総会において「大学図書館の一般公開に関する調査研究班」が組織され、調査研究を行っているの、そちらの結果を見まもりながら、当座は現行どおり対処していくこととなった。

本学からは末次閲覧掛長が出席した。

商 議 委 員 会 委 員 名 簿 (昭和60年10月1日現在)

委 員 長	館 長	高 野 桂 一	委 員	(歯) 教 授	中 山 宏 明
委 員	(文) 教 授	増 永 村 三 雄	〃	(薬) 〃	吉 村 英 敏
〃	(〃) 〃	奥 村 三 雄	〃	(〃) 〃	酒 井 井 浄
〃	(育) 〃	前 田 重 治	〃	(工) 〃	原 田 耕 介
〃	(〃) 〃	狩 野 素 朗	〃	(〃) 〃	松 田 勲
〃	(法) 〃	荒 木 誠 之 雄	〃	(農) 〃	川 波 剛 毅
〃	(〃) 〃	西 村 重 三 憲	〃	(〃) 〃	内 村 照 一
〃	(経) 〃	市 牧 正 利	〃	(養) 〃	清 水 孝 純
〃	(〃) 〃	荒 渡 文 治	〃	(〃) 〃	〃 (総理工) 〃
〃	(理) 〃	川 崎 恭 裕	〃	(〃) 〃	〃 (〃) 〃
〃	(〃) 〃	大 村 閔 毅	〃	(〃) 〃	〃 (〃) 〃
〃	(医) 〃	金 岡 増 一 郎	〃	(応) 〃	〃 (生) 〃
〃	(〃) 〃				
〃	(歯) 〃				

◆ 日 録 (昭和60年7月～9月)

7.23 附属図書館商議委員会(第132回)
特別図書選定委員会

7.23～9.27 昭和60年度図書系職員語学研修会(朝鮮語)

7.29～8.17 昭和60年度大学図書館職員長期研修会
於：図書館情報大学他

9.11～12 昭和60年度九州地区国立大学図書館協議会
実務者連絡会議 於：宮崎医科大学

九州大学図書館報「図書館情報」 Vol. 21, No. 3 (通巻139)

1985年9月25日編集 1985年10月30日発行

発行所 九州大学附属図書館・〒811福岡市東区箱崎6丁目10番1号 電話 641-1101 内線 2454